

仕事を休んで、育児を働く

令和3年6月

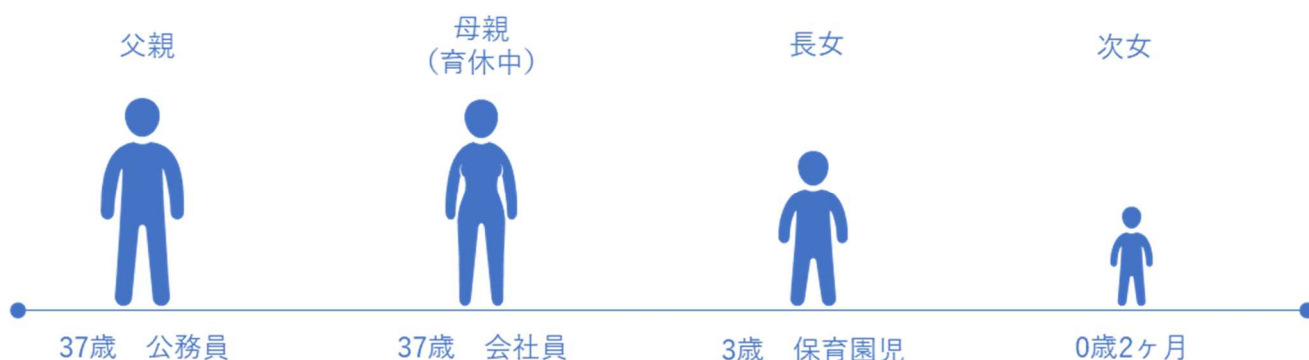
清田 弘祐

2020年の1月から6月末までの6ヶ月間、育児休業を取得しました。

これは、なかなか大変で、とても楽しかった育児休業の経験を、その時のことを思い出しながら書いたものです。

家族のこと

家族構成 ※年齢は育児休業開始（2020.1.1）時点



我が家は、妻が特殊な勤務体系で働いており、月の1/3~1/2 くらいを不在にするため、第1子の子育ての頃から一般的な共働きの家庭よりも父親が育児にあたる時間が長い家庭でした。

妻の不在時は、

朝、子供の朝食を準備し、一緒に食べて、着替えをさせて、保育園に送り届けてから出勤。

夕方、仕事を終えて職場を出たら、子供を保育園に迎えに行き、実家の母親のところで晩ご飯（感謝！）を食べさせてもらい、帰宅。

その後、お風呂、歯磨き、寝かしつけを終えてから、翌日の保育園の準備や洗濯。

寝かしつけをしながらうっかり一緒に寝てしまい、深夜に起きて洗濯物を干したり、朝食用のパンを買い忘れ、ご飯を炊く時間もなく、朝から豆腐の味噌汁と生野菜のヘルシーメニューで娘に我慢してもらったりと、失敗エピソードを順調に積み重ねつつ、めまぐるしく育児と仕事を行ったり来たりする日々でした。

その分、妻がいる間は、隙あらば子供とソファでゴロゴロして、毎日家事・育児をテキパキこなす妻の偉大さを噛みしめていました。

育休取得までのこと

取得までの流れ



そんな生活を続けている中、第2子の妊娠が判明します。

妊娠が分かった直後から、自分の中では育児休業を取得しようと決めていました。

それは、妻がいない間の育児をする中で、一人で子育てするよりも、二人で子育てしたほうがより育児を楽しめるのに、と感じていたからです。

かわいい我が子と一緒にいられる時間はとても幸せなことです。時に子育ては、大変な重荷だと感じることもあります。特に、一人で面倒を見ている時は、体調も崩せない、子供から目も離せない、肉体的にも精神的にも追い詰められた気分になることがありました。

これは私だけでなく、家で第2子と一緒にいる妻も、私が仕事に行っている日中に同じような状況になるはず。だったら、育児休業をとって一緒に子育てしたほうが、より幸せに子育てができると思ったのです。

ところが、最初に妻と育児休業取得について相談した時は、思い切り反対されました。

理由は所得の減少です。妻は、第1子出産してからの復職後、勤務日数を減らして働いていたこともあり、妻に支給される育児休業給付金も第1子の時よりもかなり少なくなります。私の育児休業取得でさらに家計が苦しくなってしまうことを危惧していたのです。

最終的には、「何とかやるよ」と楽観的な私に押し切られて、しぶしぶ了承してくれましたが、妻の懸念はもっともで、家や車のローンなどを抱えているタイミングだったら、育休の取得は断念していたかもしれません。

家庭内での相談が終わったら、すぐに職場の同僚や上司に育休取得の意向を伝えました。

とはいうものの、長期で育休取得を希望する職員もあまりいないためか、言い出した当初は自分も周囲も段取りがあまり分らず、「本当に育児休業が取れるのだろうか」と少し不安に思いな

がら、しばらく忙しい仕事の日々を続けました。

実際、育休に向けて職場での調整が始まったのは育休取得の2ヶ月前くらいからだったと思います。私の育児休業後に予定している業務の洗い出しや、懸案事項のリストアップをして、上司や同僚と共有。その後の自らの業務内容の進捗は、できる限りリアルタイムで共有することを心がけました。

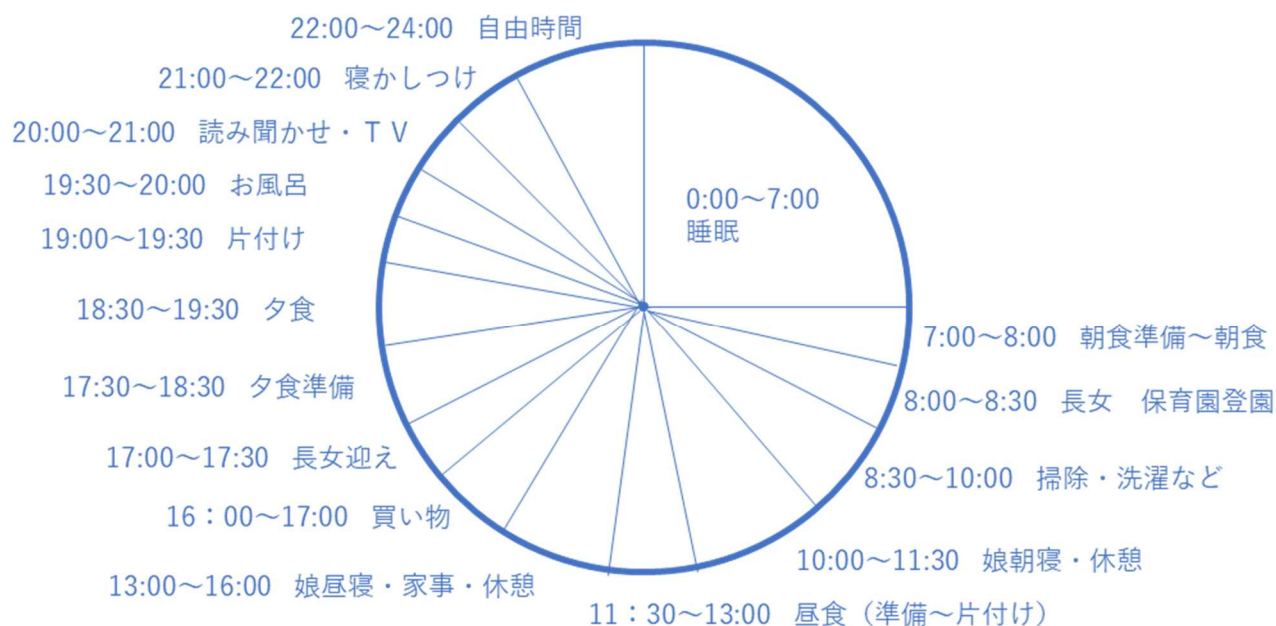
具体的な業務の引き継ぎを行ったのは、育休に入る直前。

年末のバタバタした中での引き継ぎだったので、育休のに入った後も、しばらくは電話やPCなどを通じて業務連絡をしていました。

育児休業に対して、上司や同僚が理解を示してくれて本当に恵まれていたと思います。

育休中のこと

育休中の一日（例）



いざ育休が始まってみると、待っていたのは思った以上に忙しい日々でした。

久しぶりの小さな赤ちゃんの世話でしたが、第一子で経験しているし何とかなるだろうと、調子に乗っていた自分の甘さを痛感するばかり。

寝ない、泣き止まない、すぐ起きる、の3連打を浴びていたら、あっという間に一日が終わります。子供が生まれてから、私の育休が始まるまでの約2ヶ月間、一人で日中の面倒を見ていた妻はあらためてすごいと思いながら、泣き止まない子供の世話はほとんど母親に任せるしかありま

せんでした。

それでも、自分のいるメリットを出せるよう、なんとなく妻と役割分担を決め、家事をこなしながら、生活リズムを作っていました。生まれたばかりの子供はもちろんのこと、こんなに長期間ずっと一緒に過ごすこともなかった妻との暮らしは、互いのリズムがなかなか合わず、口論になることもありました。1ヶ月くらい経った頃には、ようやく夫婦ともに余裕をもって育児や家事をできるようになりました。

その後は、新型コロナウイルスの影響で長女の保育園から登園自粛の要請があり、家族4人で過ごす時間が一気に増えました。

元気のありあまる長女を公園に連れて行ったり、ちょっとした買い物をすませたり、というのを平日昼間にこなせることは、育休取得前は全く予想していませんでしたが、結果的に育休を取ったことによる大きなメリットだったと思います。

その後も、遠出することもあまりなく、家族4人で育児休業期間を過ごし、2020年7月に予定通り職場へ復帰しました。

仕事のこと

育休も残り1か月くらいになった頃、自分でも驚きだったのですが、早く職場に復帰したいと考えるようになっていました。

育児休業の期間中、家族内のコミュニケーションはより深まりましたが、新型コロナウイルスの影響で、家族以外との接点はほぼ無くなっていたこともあり、きっと、社会とのつながりのようなものを欲していたのだと思います。

育児休業からの復職と同時に、異動も決まり、心機一転新たな環境でのスタートとなりましたが、すべてのことが新鮮で、今でも毎日楽しく集中して業務に励んでいます。

育児休業のおかげで、仕事へのモチベーションが上がるのは自分でも本当に予想外でした。

育休を終えて

妻に、育休を取ったことについて聞いてみると、当初反対はしたものの、「助かったし、取得してよかった」と言ってもらえました。

一番助かったのは、「ゆっくり昼ご飯を食べられたこと」だそうです。日中子供と二人きりで過ごしていると、ゆっくり昼ご飯を作ることも食べることもままならないので、毎日昼ご飯がゆっくり食べられるだけで気持ちにゆとりが持てるのだそうです。

私にとっても育児休業中の生活を通じて、子育てや家事に対する価値観をお互いがよく知れたことは、これから続く家族の生活にとって、とても有益だったと感じます。

この体験談を書いている今では、第2子もあつという間に1歳になり、姉と一緒に毎日元気に暴れ回っています。妻も復職し、月の半分ほどを父親と娘二人で過ごす生活も始まりましたが、子供が一人だけの時に比べ、難易度は倍以上になりましたが、リモート育児をしてくれる妻や、晩ご飯を用意してくれる母親や、私の家庭環境を理解してくれる職場の皆さんなどに支えられて、家庭も仕事も、楽しく打ち込めています。

育休を通じて学んだこと

育児休業を取得するにあたって、気づいたことをまとめました。
よかったら参考にしてください。

<取得するには>

育休を考えていたら、まずはそのことを職場で共有する

⇒長期で育休を取得するには、本人だけでなく周りの人たちも調整に時間を要します。

育休をとろうと考えるなら、妊娠が判明した直後から同僚や上司に育休取得を検討していることを伝えましょう。早めに職場に意向を伝えれば自分も周囲も心の準備の時間ができます。

出産時期や取得期間だけでなく、職場の雰囲気や上司・同僚の理解度によって、育休の取りやすさも変わってくると思います。なるべく時間をかけて気持ちよく育休を取る準備をしましょう。

収入・支出のプランはよく考えて

⇒出産・子育ては、収入・支出ともにイレギュラーなものが増えるので、事前にお金の出入りを把握しておくとう安心です。

月々の収入は、育児休業手当金が支給され、社会保険料が免除されます。

トータルでは月々の手取りが従来の80%程度。ボーナスも育休期間に応じて減額ですので、世帯収入はさらに下がります。これは6ヶ月取得した私の場合ですので、皆さんも取得前によく計算してみてください。

また、共済組合からもらえる育児休業手当金は、育休取得から最初の支払いまでは最長2ヶ月程度かかるので注意してください。住民税が特別徴収（給与天引き）から直接納付に変わり、思わぬタイミングでの出費もあります。

<育休中は>

まずは夫婦間で生活リズムを合わせよう！

⇒育児をしながら、効率的に家事をこなすためのルーティンをパートナー（母親）は持っています。パートナーのルーティンを尊重し、自分のペースではなく、まずはパートナーが子育て・家事をしやすい環境を作りましょう。その上で、より効率的に家事をこなす方法を夫婦で相談していくのがいいと思います。

慣れてきたら夫婦それぞれ一人の時間を作ろう！

⇒育児と家事を続けていると、気づかないうちに心身の疲労が蓄積します。夫婦ともに育休を取得している家庭では、夫婦間でのコミュニケーションで疲れたりすることも。ちょっと無理してでも夫婦それぞれ一人になれる時間を協力して作りましょう。特にしたいことがなくても、1人になれるだけで気持ちはかなりリフレッシュできます。妻が言うには、昼間のヨガが最高、とのことでした。

育休中は欲張らない・急がない

⇒育休の期間は、仕事に役立つ資格やスキルを身につけるチャンスです。ただ、その前に育児と家事のスキルアップから始めましょう。子供の性格や環境によって、育児の難易度はかなり違います。スキルアップなどは急がずに、まずはゆっくり育児や家事に向き合ってみると、心穏やかに過ごせるはずですよ。